

最優秀賞（小学校1・2年生の部）

目に見えないものもたからもの

（課題図書：ねこのふくびき）【感想文】

つくば市立竹園西小学校 2年 <sup>やすだ</sup>保田 <sup>れい</sup> 怜

この本を読んで、ぼくは心がほんわかあたたかくなりました。ねこのルークがふくびきで一とうしょうを当てて、ねがいがかなくなって1日だけ人間になり、大すきなかいぬしのみゆちゃんと学校ですごくお話したからです。

ぼくが一番心にのこったのは、みゆちゃんがルークからもらった一とうしょうのふくびきを、自分のたからものが入っている青いクッキーの缶に入れることにしたところでした。一とうしょうのふくびきは、ルークのたからものはずなのに、みゆちゃんにあげてしまいました。ぼくはその理由を考えました。一とうしょうのふくびきは大じです。でも、人間になってみゆちゃんとお話したり、いっしょに学校ですごく時間の方が、ルークにとってはもっともっと大じなたからものだからだと思いました。それは、ふくびきの紙がなくなっても、ずっと心にある大切な思い出です。

ぼくにも、たからものがあります。おばあちゃんにもらったラジコンカーです。白い車体に赤、みどり、黄みどり色の線があって、数字で35と書いてあります。ヘルメットをかぶったレーサーがのっています。ビューンとスピードを上げて走り、かっこいいです。ラジコンカーをもらった時の、思わずジャンプした気もちや、みんながニコニコ顔だったこともぼくのたからものです。この本を読んで、たからものは、形があるものだけではないと思いました。楽しかった時間やあい手へのやさしい気もちのような、目に見えない形のないものも、たからものなんだと気がつきました。

ルークは、みゆちゃんのよいところをたくさん見つけて作文に書きました。ぼくも、友だちのよいところをたくさん見つけたいです。そして、毎日をニコニコ顔ですごして、これからも大切なたからものの気もちをたくさん見つけていきたいです。